の光像開発所属に関いる。

出義した。訪問の目的は本府 のこと」なり、 廿一日夜京城 小様総常は隣州浦洲國を訪問

所謂大陸經濟圏がこれを基盤と

代以來最初のことであるが

像然とる結算であって、鮮劇の

して、帝國の戦力増頭に密興し

深きものがあると思ばれる。 動務地であり、その感覚は一入 端州國は総督にとっては曾ての ろである。小機総督の訪補は総

激たるものがあつた。沿き切つ

この七月十日頃までは置に暗

本年の年島米坪豫島に対して 樂觀すな

で示してゐる。本語相付か合九

一分九歴といふ成績は七日

権付金では大震申分なき妖骸

それはそれでいくとしても、

(編集 報本 8 元) 社會式株藥製義野塩

組合貯蓄にも

朝鮮總督府・生命保險統制會

命保

險

民を仰いで、

合を心のまく作柄雑態に換算す

やう無ねて駆民諸君に谷順する

**総設保物を見欠北濱に延は別・土ならびに支部事態において館にしれ大島部蔵館等・七回死拠者・支那・かあらせられ、同日年前家降運町・陜町台蔵として各方面作駅に参加し設法語1果さ落りでは廿三日(裏に別歌堂館楽に版面せる楽館器)貢献した浜町鎌衛に潜し、それだ「寡職界廿間と製茶職助行賞の創沙」のる、機働等中五期中野は潜上部一** 

総画」異き続いでは廿三日

小磯總督の滿洲國訪問

に大なる鉄器である。小機器

である。

適所を選んで、文字通り一次第

大地を思した適時適雨はまた

又宗國のため海に同談に堪

旱水圏関様の備へがなくてはな

が生ずる。厳じて油酸は出來ぬ

率めての後の天候條件も順

金に関するものがあつたのであ

る組践である。われらの連然は

世が後にせぬとも限らぬ。勿論

せにすべきでなく、秋の収穫期

一於いて植物病その他の病

植付好績に

のであることを信じて疑はぬの

然の上に一般の刑事をかけるも

思難が感せる特氏の一部にしてうち孫順明として行気せられたるは海境中将近藤存知以下七十九名なり

したび、今回協議に治した今久奥毘坂楽藤死海区総和十六年十二月下聞より昭和十七年十一月下聞に至る間に多方面において、次軍・省 公表(七月廿三日衆婦)本日区総絡城場依藤原職記さよび大奥鹿殿寺海東藤殿寺上に両し職辺行戦の御沙珠を興済

明として行気をられたるものは功。上の一部で、 功績放祥にして殊動

戦を離れず比然なる最死を遂げた

海軍關係論功行賞發表

む昨年十一月下旬に歪る間に贈

威に潜加催功を樹てたが、東方面

殊勳甲

職体名職高等官および民間有職権をもつて組織する

しくなり、甘二日附首線をもつて

日本語の正しい發音 教育議員会員 大西雅雄者 三色緑風多窓・三〇

展 **大** 文 堂 条 京 ・ 京 解 ・ 京 解 ・ 京 解 ・ 京 解 ・ ス と 一 文 ・ 堂

があるので、政府はこれ

丘麓鄉南歌宮 (三)

夏田

一一一日

陸軍司政官(廿二

光展著は昭和十六年十二月下旬

殿頭に婚れたのである。 功四起

攻撃して敵に多大の損害を與へた

ムンダ北方のライス灣、 【CO基地廿二日間盟】ソロ

モン群島方面の帝國海軍航空部隊は七月上

口

バイコロの敵陣地ルビアナ島及びガダルカナル島をそれん

百六十四合を駆逐したといはれるは廿二百東部撤級に於て赤百取車 盟」強軍管局の管明によれ

類非常目収の対策にる制物

御殿祭あらせられたるに満

ある朝鮮の重姿を御目ら御確認

ために積極的協力をついけつく

人滿に際

挨拶を發表

感激を以って細胞したのであ

大なるを疑はないのである

策を推進する上に得る所蓋し 監戒することは兩者相関の政

道經國の精神と置源とが急々

層身近くに横洲國の鼓

て感慨の題る切なるものある

二島

の敵陣地夜襲

のぶの殿・皇帝陛下安東地方

今回私が滅洲國を訪問後す

司令官以下日瀬首編部に對し と、また景國別総理・福津軍 たる領海に耐する御臓の溶上

同想機の完務に上下一和集國 一徳一心の道機関係による共

掛けてゐる次第である、今回

て選処ながら朝鮮務所就什の 職古の時間下、瀬州國の王

て以來遊解の間も常に多大の

日英の胡桃田町は瀬足地宮苑、海「あると宮崎紫藤路小塚園昭大橋は「緑の御鷹宮しと瀬郷園桐野に樹し「新京にて宇田野派勇祭」二下立「坂崎州忠嗣兵浦宮庭と得き立うし「瀬洲園島帯壁下、水装設館が河瀬郷

理共衆國際立の気波基地として記

類はモントコメリー軍の削削

れてゐる、同方面で英米篡は强力

で河ならびにシメト河流域で行は

特にエンナ方面の米軍は全主

麟菊 平池 著

母

B

記

正清 紀池

技

術と精神

目下戦闘はカタニャからかなり

最後的仕上げに期待

進展する協和融合

洲國網野期は、在隣別総人代表、各種關鍵代表等の前に選手の選を

かヘレコン新京野貨質鑑に入り映めて

を配出した安島 温減の風物と出道治さ 後庭原語に感染情報の運動が東側側を取引令限の下に重認性の更勝に在りて東と連首に全性空間の開発がを終えて満洲園に入ったが思へは勝利人年減州園原建省時間の東側には一

日十年目に大興企戦等下の副熊部番として第一歩を印したので

昭和九年三月参

副長の徐子を西尾中将に

書つて去つたこの

歩いに

原先に出理への標準関東策司令官頭に駐謝時命全権大阪とがつちら

選問所(てに室賓貴驛) 督總(機小るけうを授集の理總張たへ迎出

【ベルリン廿一日同盟】廿一日巌【へよう、これに反し中部ならばに

西部における眼睛に覆軸道の頭力

行けば、臘野一面縁波うつ級魚池構が早くも眠味に獲込んでくる、

胸中を去深したことであらう、鏡都駿山の選工業の舞音遊くらすれ

**建二十二日午後八時十分新京と到着した。この日小磯總督は午前**六 【新京にて曽田特派員数】朝鮮悉哲小碑國俗大將は二十一日京成出

土道洽き發展に

めにし、更に十一年十月廿九日

感慨無量の追想

と回き握手宿舍迎賓館

説識の途にある小磯感野は古

た、畏くも通

安東通過の總督語る

午前六時五分安原曜に第一歩を印部業の途にある小磯懸骸は廿二日

巡済の間、水獭鐵道所御殿祭の

した、震震とは中央なら出部

要・一人事改長をはじめ、曹安東省

歩幅に降り立ち出迎人に突掠さな一に融密の 腕中に湧 いたのであら

敵前進を完全阻止

シチリャ樞軸軍勇戰

東耳 通子太陽中将於 資金 所行發

陸軍少將に進級 南方に散華、黑川、

横山兩大佐

異の朝鮮人はみなこれ派派帝國権 東大使命の上に立つてゐるので 組団十個國民の職食氏出地だるの

とは協和配合し均等條件を以て各 を元費せしむるとともに悪んで激 要なる構成分子だることを自覚せ 國門において時の南朝無慈術と関

たのである、越えて昭和十六年四

秋に皆り小磯朝鮮液骸の瀬洲園正

戦人は無臓暴民としてその恩典に 見たのである、在瀬百五十萬の明 た朝鮮人の徴兵制質施が昭和十八 と基本方針が確立された、爾來二 た<br />
管具なる。<br />
活剤<br />
調人民たるの数<br />
本圏<br />
物を有する<br />
在納朝時人は<br />
宝

するものとして恐い今回の助領 膜の名にそいかざるの能力を発揮 を確立し速に大東距戦等下北邊領 を送うて疑問の一路でたこう

日頃の理念達成

8

【のぞみ軍中にて井垣特派員器】 しつつ圏 かしげな 慰をなげがけ

有是富貴有

版重と刊新最

養婦毒 網 喬芬 漂亮紅房長覆 劉 日慶椒原日為 紫癜角 網 用建設陽架 景 日實

渡邊華山の 佐久間象出人と思 疑問の人物 佐藤

勤王浪人 ₹ に還 Ø 0 國臣上原行八章 る 道 朝 原語寺 雄者 TIA 番番 (M) 大○ 丁五 数枝史郎著

作 名

侧·八〇平1五

摩潘士

をはて阿士保全と食績級國の實宅展で、 命によりば、姜、居三州の大治水工事と 着がは大垣間韓留だ、岐阜縣史間調査に

信著

清下好適の響。價二・五〇送一六 に在りては網神附加の要力説で時 で在りては網神附加の要力説で時 での民族的な競添系譜に依り乳酸

五五三二八 房

河出智房

防衛門 盟

讀 場 場 場 場 場 (B6刺 500頁)

鍛鍊鍛造Ⅰ 對₩ 5.00

票整置版田神生著(A5判 460頁) 至点點響**廢物の利用** 9個 6.72

金屬(特に自動車・射空機・兵器部品等)の合 期的作業法の特徴終陷を述べ優機作業に於ける 研究の結果と多量生産力法とを評価す。

本審は有機化學工業の生産過程より生ずる敷物 の生因機類を検討し、その利用更生の方法施設

鹽額照 垣内富士雄著 (Berj 195頁) 海綿鐵及び粒鐵 [Maj 海綿織及び粒嫌の製造法を述べ日浦に於ける新 しい質例と著者の研究成果を破表す。 戰、 ★# #特殊鋼の理論と實際 ₹ 1.20 陣調本

綜合戰史 史

日本精神の本質 ・ 本精神の本質

総献より珊瑚海々販に至る迄除す處なく耽す。 第一輯―Be 刊寫眞地雕多 二圓九十銭平計銭 臣民の道精義 1・公正10

生理學概論 ※30F18

竹谷勢- 切削双物の設計と製作 ※1.20 前田六郎和 鋼 和

¥ 1.20

極本日京東

寶曆治水

八四七九五京東春墨**社題間の日今** 四町村田區芝都京東**社題間の日今** 

信/湖森 统 三著信/湖森 统 三著

內藤智秀著

微四千五百萬國となったことは既 一同期に比して移出域八千一百四

取力増限に最も必要な動物を膨

関別に比して移出観点子一首萬 のであらう、次に第二部門をる臓が上生物の製肉地質影が、昨一人力の 及ばぬ力の作用に よるも

對内地貿易の検討

的要素が明かとなった。それは米

県の全部を回収し中國統一

を得上属を完全に把握し上海と

向って、死者狂ひの抗戦を アメリカに嗾しかけられて、

一年間に六日萬平方米の

その抗戦力を狩り

へてゐる。而して企業整備

も軍舗工業へ数用できる、整 解は未完成であるけると、

ブランシの企業整備

**井政策制を見ると、七十直** 

理された工場は、残谷の無點

に隣接する上海フランス和界

飛頭的向上を過げるに至つた

ジを確へ、國府の對内外的地位は

上海佛租界還附

昨日南京で調印完了

いではかねて大威省において計 整理を急いでゐたところこのほ

条計を完了一部推定を含む近裔

一六月)の國民的密増加簽績に、

國民貯蓄實績點職

ことに決定したが、野林省ではこ

從來の生態疑慮金石當り五國のほ禽米價格對策により生産者に對し

米について交附する

十九億四百萬國にのぼつてをり、

戦時下「を超える増加期合を示してゐる」【東京電話】歌力増頭の基盤だる」 れを本年度目標の一百七十歳

より劣

震災、縄、縄、西路、水便、浦一整備により電流者を解除させ、同一千萬国、

十三日襲要された船舶運動監督部製 なった國際冷戦(社長政策元氏、

水製造業がある、

まねく大衆への敵愾心団揚に罪 (朝鮮文人報國會主催、 朝鮮漫 京日外境真處屋子笠

要不料送 銭十八四一月ケー要會O 衆卒月ケ五十〇

電學新學期開講

男不料送の 銭十五四一月ケ

る來出が業卒女高に全完て學獨●

(定質に避すれば思った機切る) 無代進言が 今 ス グ ス 次 変 内 と無代で海星 本 大 変 実内 と 無代で海星 エ ス か ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま ま た で の ま た で で の ま た で の ま た で の ま た で の ま た で で の ま た で で で の ま た で で で で で で の ま た で で で で で で で で で

朝鮮經濟の型

注目すべき二つの

時においては他力に何かが削さ」は「ごとなる、この場所に対象へ」 あるためと生ずる質然の結果で の長点は全球性が強く限す。こ ため時が嫌くをするものである。 では他はである。 ため時が嫌くをするものである。

**電機込内商船人幣所有)および** 

株式市況(經顯)

海と堀と川

飯島滋

次

貯蓄増强の一

【東京電話】朝鮮食猫管理令の係

集荷配給兩業務も兼備

朝鮮食糧管理令來週閣議で決定

「東京電話」大衆観介類の増盛を

未公定魚介

公中央協議會開催

國際海郎では廿二日東京京橋本社・てゐるが、一方合体交影を受けた てゐるが、一方合体交影を受けた

大阪商船四社吸收

船舶運航整備に即應

に重役會を開いて早くも合併條件

飲金兌 オシウミ世属科智原的 駕海 醫院

◇。來出業卒が學中にパツリで學獨◇

阎

◎獨學時代來る!! 

參精















































■皇國農村の見本(陰)

繪ばなし(無監験だるなど) ・(H色)新しい榮養資源

あ山崎部隊長-00陸軍少位

曜から八月末までの毎日曜を選びかけようと、道では二十五日の日

騎道の訓練 中等學徒に

一一人命令するでも

が出で結構と世

原計社 無計社

薔薇の花の意匠で有名な・ 興亞化學工業の力作です

中工業株式會社

肩こり

新しく出来た貼りぐすり 新なにもとても好評です。 も女人、東三十八百 りですり

el j

60 J

出際、ピスト的の

百萬州羊城巡軍の大 日は全解集けて二千五

(5樂で

當しませう

の関節をはかってある、プロペラ・一つのでプロペラに振願しくやうに質れて來ると、ツンと他の受害の愛難としがあついて機関・一句動・ピかゝる、始助車は趙、被目がけて走って來る、秦雲が開いて発って来る。秦雲が帰

で献たてハーは、また一郎と飛行

總督府内に廿二日~昭舎内清潔に一力してきたが、三千餘名の顧員を

白堊殿清掃の警

三千の廳員擧り起つ

血滲む大空の猛訓

地上の親鷲脳さるせす

豪華・徴兵記念の文化行事

夕どな

鍮器献納へ ほとばしる赤誠







・ 職事養者者 1 年前(第1七級ヨリニナルビノモノミナル 世出書類 自信財産計画・第2 月元明度 1 年 1 日本日 2 年

員募

要啊上、跟上 或给北道奴律府

年離婚家の敷的擴充策に客頭、さ一ハルピンで第一班と合流してこ業に基く開拓医の癌的時上及び常「朝陽開拓融などを訓練、八月八日 入陸へ國民學校の先生を派遣 一京版職業學校では

建築料は後旬の屋棚の優の選供などの家具製造に造、排水工事、整地作業のし木材工廠料では机

あみようと、鍼後の見

四国の決定、映畫の選定などを一一もとに田植の総選等が展開された一環く解説されて來る

女生徒の田

火花と散る指頭

島際者が一既となって新組織船

注文應するの

師弟一丸、汗ご油の生産

が受休み炭酸のけをく か

とになり目下具機器を進めてゐる。 になった。 期間中の主なる行事は一般しいモンベの規格を決定するこ。 決議下の生面軽國に突進すること

、と仕立屋などに断

駆跡。映武幕村越長の五氏が同日「牛蝎人 潮湯周報 第二班五ヶ年計"安脈戦所、司道麻村、忠煕問班戦日眺高時社長、桧宮城戸東跡光田「戦ぐましき活躍の実態に優れさせ「午後七禄 四十分 京城を设って※

慰問のお蔭で、半分快癒

島藝能團熱演、勇士大喜び

|関節病院 (本院) をそれぐ

音樂と映畫

蠶飼育指導

城東製粉

持加到

應職就求募— 資業人人 格務地者員般

消耗性疾患 ij

| 議議| 原

- 42

一日一年日 松下電響 東東株式合品電視事業部 オラント 個か一般節約した影力でも 此際家庭の一般でも大切にして不用生産にこれだけ大きな働きをする の節は手まめに消す習慣をつけやう

つうはいり 10万円 アールミング 保存 飛

**沙命**百定

できる。 ・ でを。 ・ でを。 ・ でを。 ・ でを。 ・ でをををでをできる。 ・ でをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをで

秋岡商會 京城府明治町二丁町

上出荷数シマス 2000 大理店 株会社 北島 英 店 日本館等に下す。 大安 店 事株式 舎社 大安 店 事株式 舎社 上出荷数シマス 2000 大安 店 まないまして まった 大安 店 事 株式 舎社 上出荷数シマス 2000 大安 店 まない 大理店 株会社 北島 英 店

イン下材用 ・ 原土館史試験無料に致シマス

Y. 光 料 刊 般

藤

內 縣 科 部

佐藤

只成沙樂町 電水

地震

場場があって

京 \* ルアデイア 品 株 化

.

東華洋行

粧品 材料染料

强

ンヤングル地帯に皇軍奮戦

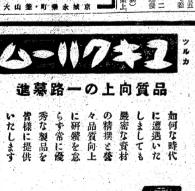
調に油斷すな

非常に備へ野菜類の貯瀬肝要

外交顧問に起用

霞ケ閼の陣容を强化

**潮州區職との祖互職敵を緊密にし、悪疾態態の下に第一回内州地職職・て渡支してある石速期太郎氏を加野の職際所職等勝度では内州地及び、半より、「心が鹿の連撃で乗職署」が交換問は現在側辺政が勝間としてかく、 かくている 観光 東京 の はいかい は、日本前八は、日本前八は、日本での 変やりた、 かくている の は、 一本の は、 は、 この は、 一本の は、 この は、** 











のありか を狂い、おの様によったとなるの。大阪間子十銭、十日のかので持った。 を狂い、おの様によったとなるが 大きが はいかった (1) では、 1 の では、 1 特殊ホルモン補給療法とは?

が生んだ 特殊ホルモン補給療法とはる最新團説 急所(血壓中層)の故障を止める 世界の中風、半身不隨に 壁を上足の中でれて油断は禁物! 響いる 不眠 耳鳴 舌もつれ 熊鷺

完全消化

壓血高

# っ待往學 人間,被對抗量产水

## 屋事好調に満悦の 田中總溫

が力を望み、 ペッと上側を乗り出 つと、起った網路は微度な默 指導方針を練る

水魔から救ふ

朝鮮では年々四千数百名が都死す

三聯盟の連絡打合 歌』「國民総力の歌」歌詞改作

民総力三聯盟(朝鮮、京融道、京

際虫であるから、これを聴って食 るといふことは「石」属の効果 植物の方ではどんな新

郷山ありますがヨ

です、朝鮮の

ゐます、お米

も蛋白質補給上質に立派な食料で

戦時禁養食を語る緊急

**御兵制資施 医耐央層 宣揚巡助** 

感として考へさせられる

である、國民は今で、戦ひの中にその 民の 食生活~に大いなる 継新をもたなく

採取するには非常な困難が伴ひ すから私は食べられる野草は

決戦に

伴はぬ食生活

いひますが、これとてもすぐけ また次に何か織つたものを混ぜる

似いて食べたものですか

うまい不味いも調理次第

しませう

錠で

として 動物の 気に置くてその動 たらば、哲人の食べる動物の飼料

明

辔 送

次九第

投 本 證券

京城市金町 中込受附 **医夜連續三回** 日曜 十二時開揚 《BECS 京城資塚劇場

でなったものかのかり、 精力强進劑として卓披なる効果を發揮する!











蚊や南京虫の

月やく

けふの市況

國

慰問用玩具

3

く夏季の構へ

斷じ

養展相談所に申込むこと

台灣の暴風雨被害

新竹、台中、藤 は二十年振りの

い別いて、更に懈を飛ばし、へ何か派令を下してゐたが、

脳を分削り、斑を感いで

いた。

株式投資





